

## パネルディスカッション

「ともに考える社会との接点が増える意味と増やし方」

進行：上智大学 総合人間学部社会福祉学科  
准教授 鍋木 奈津子 氏



## 進行

上智大学 総合人間学部社会福祉学科 准教授 鏑木 奈津子 氏

## 登壇者

豊田市博物館 館長 村田 眞宏 氏

豊田市青年会議所 理事長 鈴木 聖人 氏

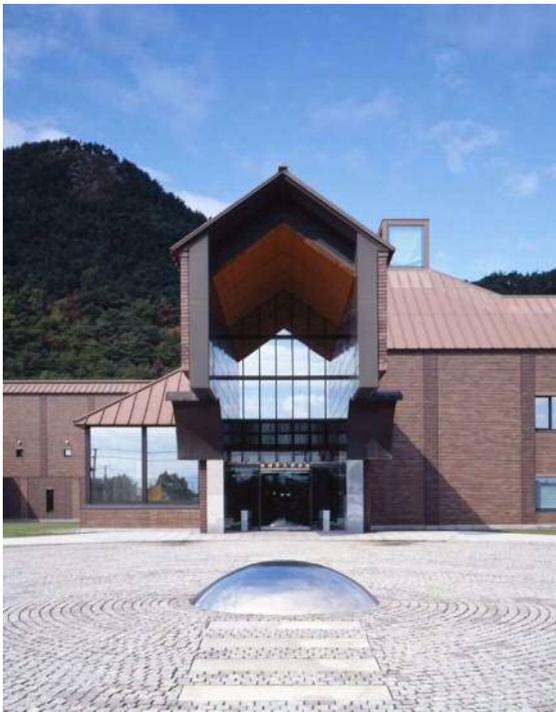
NPO法人ユートピア若宮 理事長 木本 光宣 氏

あそびとくらしとまなびの家 ちゃぽっと 代表 杉山 佐由紀 氏

## 村田眞宏(むらた まさひろ) 豊田市博物館館長

4つの公立美術館、博物館の事業・運営にたずさわる(学芸員)  
福島県立美術館・愛知県美術館・豊田市美術館・豊田市博物館

豊田市美術館以外の3館で開館準備を経験



# 豊田市博物館 — みんなでつくりつづける —



— プロセスを大切にする —

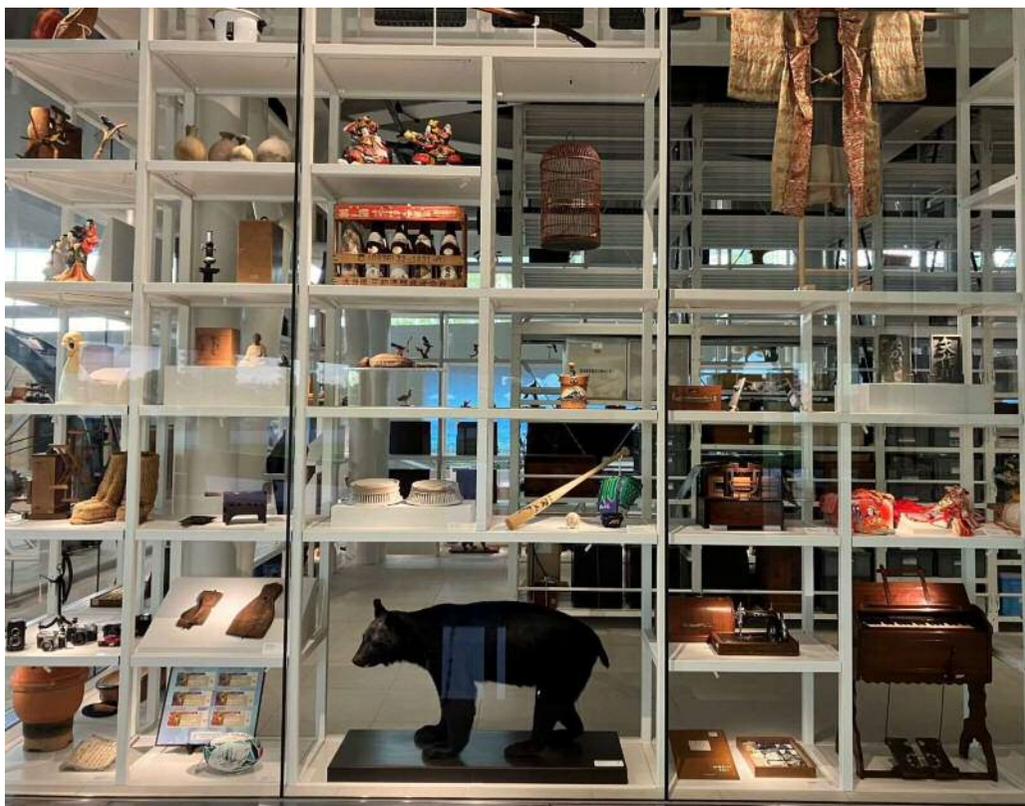
# とよはくパートナー

- ・ サークル・団体・企業 ……78団体
- ・ 個人 ……165人 5グループ

楽しみ方ガイド、自然体験、博物館学習、  
博物館の環境維持、あつめるプロジェクト



# 常設展のテーマ 「とよたの自然と人々のいとなみ」



とよたに出会い、対話し、探求する

人びとの記憶と対話し、自身の記憶をのこす



とよはくパートナーがそれを支える



# 自己紹介

鈴木 聖人（すずき まさと）

富士産機株式会社 総務部長 現在40歳

仕事以外の活動  
趣味 釣り、旅行

（一社）豊田青年会議所 2024年度理事長  
豊田市総合計画審議会 委員  
豊田市市民活動促進委員会 委員  
とよた多世代参加支援プロジェクト 理事  
おたがいさま会議とよた 代表

# つながりをつくる活動

## おたがいさま会議とよた

豊田青年会議所と三河の山里コミュニティパワー、日本福祉協議機構が事務局となり2021年に発足、地域の困りごとや課題解決への取り組みを広く知っていただき、これまでつながりが無かった立場の人をつなげることで地域の課題解決を進めています。



月に1回オンラインで課題を共有し意見交換をしています。

中山間地と市街地のつながり、市民活動やボランティアと企業のつながり、など多くのつながりが新たにできました。

# 福祉に関わる活動



- ・会社での内職作業を福祉事業所（B型2か所、生活介護1か所）に。
- ・シルバー人材センターの内職ステーションの発足にも関わらせていただく。
- ・現在は事務所の一部をワーク・ダイバーシティスタイルの事務所として。
- ・本年度より、とよた多世代参加支援プロジェクトの理事も務めさせていただいております。

# 働き方と中山間地での活動



仕事とは別で社会貢献するのでなく、仕事をする事自体が社会の課題解決につながるようにはできないか？  
と考え、半農半製造業の働き方を会社に取り入れました。



羽布の里自給家族、想家プロジェクト  
中山間地域でのアドベンチャーツーリズムの企画

# ユートピア若宮 活動30年

～社会モデルを広めるためのサービス提供～

特定非営利活動法人  
ユートピア若宮  
理事長 木本光宣



住所  
〒471-0871  
愛知県豊田市元宮町6丁目19番地  
(最寄り駅：名鉄上挙母駅 徒歩20分)

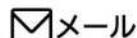


電話 0565-31-1117



ファックス 0565-85-8185

営業時間 平日9時～18時



メール wakamiya@utopia-wakamiya.com



SNSはこちらから  
<https://lit.link/utopiawakamiya>

こちらのQRコードからアクセスできます→



会員募集中!

賛助会員 2,000円・3,000円・5,000円  
(郵便局)口座N O 00840-5-122366  
加入者名 自立生活センター十彩

●愛知県ファミリー・フレンドリー登録企業です●

ユートピア若宮は、男女ともに仕事と家庭を両立させることができる様々な制度を持ち、多様かつ柔軟な働き方を労働者が選択できるような取組を行っています。



●「障害」の表記について●

障害は個人にあるのではなく、社会の側にあり、私たち一人ひとりの価値観や行動で社会にある様々なバリアは解決していけるという考えから、ユートピア若宮では「障害」という表記をしています。



ゆめ  
あたりまえの生活を  
あきらめない



Since1991

エヌピーオーほうじん わかみや  
NPO法人ユートピア若宮

ユートピア若宮は、「障害の有無に関係なく集まれる場所がほしい」という思いから始まり、現在は当事者が主体となって人生を豊かなものにしようと活動している団体です。



←こちらのQRコードを読み取ると、パンフレットの内容を読み上げたYouTube動画につながります。



## じりつせいかつ という 自立生活センター十彩

「地域で自分らしい生活を送りたいな…」  
「こんなこと、やってみたいな…」

そんなふう<sup>おも</sup>に思っている障害のある人へ、一足先に自分らしく生活している障害のある人が、いろいろな形でサポートを行っています。「自分で選んで、自分で決めて、決めたことに責任をもちたい!」そんな思いをサポートする事業を行っています♪

また、多様な人たちがともに生きるインクルーシブな社会づくりについて知ってもらうために、学校・企業等への障害当事者の講師派遣や、啓発活動等も行っています。

## きょたくかいごじぎょうしょ 居宅介護事業所 フリーステーションとよた

地域で暮らす障害のある人の日々の生活を支えるために、登録ヘルパーさん・ケアスタッフさんと協力してサービスを提供しています。障害のある人とヘルパーさんを含む地域の人たちが、お互いに支えあいながら普通の生活をしていくために、活動しています。

親しみをこめて「フリステ」とよばれています♪

## エヌピーオーほうじんとよた かい NPO法人豊田ハンディキャブの会

豊田市に在住または在勤し、かつ日常生活で車いすを利用されている方を対象に、運転ボランティアさんのご協力により、福祉車両で送迎サービスを行っています。

## そうだんし えんじぎょうしょ 相談支援事業所りんく

地域で暮らす障害のある方、そのご家族、関係機関の皆様から様々な相談に応じ、地域で当たり前の自立した生活を送ることができるようにお手伝いをします。必要な福祉サービスやその他の情報提供、障害福祉サービスの利用支援、関係機関と連絡調整等を行います。

## しゅうろうけいぞくし えんぴーがた 就労継続支援B型つむぎ

個々の障害に合わせた働き方を一緒に考え、作業に取り組んでいます。自分でできることは自分で行い、できない時でも、できる方法を利用者や職員と一緒に考え、利用者さん同士が、協力し合って作業ができる事業所を目指しています。

## 質問③です!!

---

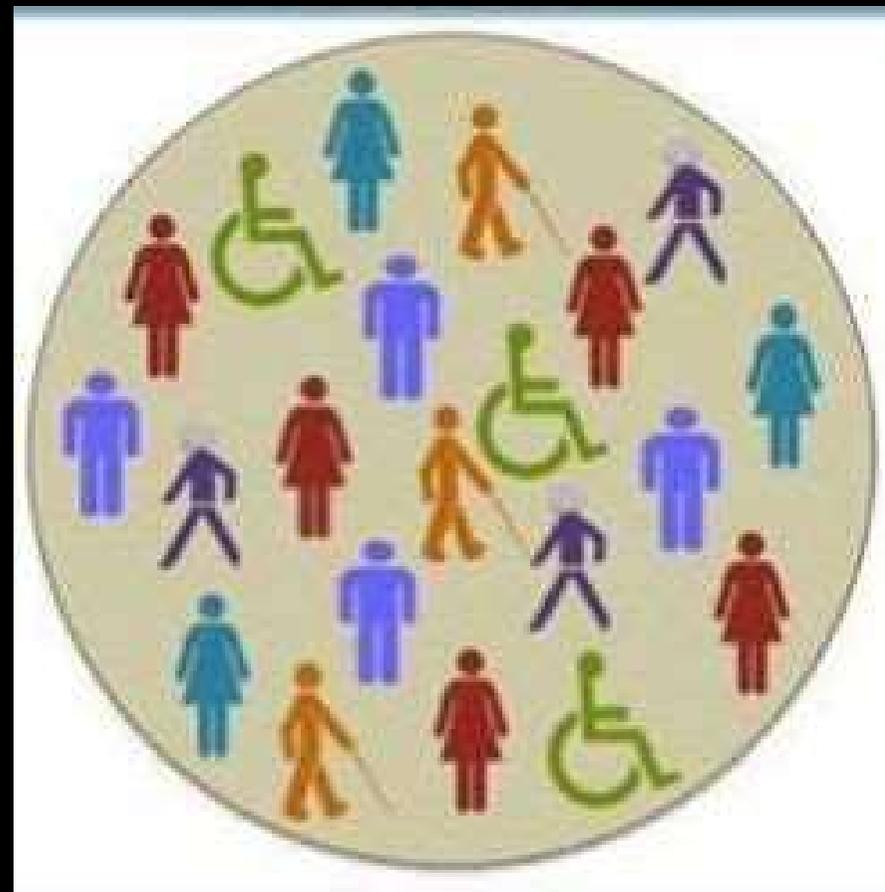
わたしの障害はなくなる  
でしょうか??



# 社会モデルの考え方

- 「機能障害」と「障害」は別  
足が動かない 歩けない  
→ **機能障害**あり
- 階段しかない 車いすでは上がれない  
→ **社会的障壁**（これが障害）
- **社会モデル**の考え方  
障害は個人にあるのではなく、**社会の環境**にある  
機能障害と障害は別もの！

みんなて障害を  
なくしていこう!!



ごちやませ♪

# はじめまして！ちゃぽっとです。

あそこに行けば誰かに会える家  
困ったときにたすけてが言える家  
子どもも大人も集いつながる家  
人も資源も循環する家  
を目指しています。



## あそびとくらしとまなびの家 ちゃぽっと

現在スタッフも参加者もごちゃまぜで運営しています。

楽しい。が何よりも大事。自分の気持ちとおなかのご機嫌で

「失敗は成功のもと」

「いろいろ所属」



得意技：生ごみを土にすること

2トン以上の生ごみを削減！

愛の生ごみパトロール 絶賛活動中！

**代表 杉山 佐由紀**

3児の母

豊田市環境学習施設eco-T事務局スタッフ（環境学習）

はらぺこ音楽隊、ダンボールコンポストアドバイザー フラトレ®



## 一緒に作って食べるが軸

子どもから大人まで参加できる。

出来ることで参加してもらおう。

ちょっと旬なことを。



### 食べる

「美味しい」は  
おなかも、心も  
満たす。



### 循環

半径2キロ圏  
内での循環の  
環をつくりだす



### 事業性

持続可能な活  
動をめざす。



## あそびとくらしとまなびの家 ちやぽっと

月に2回開催 (第1,3月曜日) 10時~14時頃

参加費 カンパ制

# 地域共生社会のさらなる推進に向けたキックオフシンポジウム アンケートご協力をお願い

本日はご参加いただきありがとうございました😊

よろしければ下記のQRコードより  
アンケートへの回答にご協力をお願いいたします。



[https://www.shinsei.e-aichi.jp/city-toyota-aichi-u/offer/offerList\\_detail?tempSeq=96882](https://www.shinsei.e-aichi.jp/city-toyota-aichi-u/offer/offerList_detail?tempSeq=96882)

主催：豊田市よりそい支援課

共催：豊田市博物館

# 參考資料

- 豊田市では、「一人ひとりの『安心な暮らし』と『生きがい』、『つながり合える地域』をともに作り、幸せを感じられる社会」を地域共生社会としている。
- 豊田市は、就労を主な機会として全国各地から来た方と昔からの豊田市民の共生を考え、昭和40年頃から一貫して「ふれあい豊かな地域社会づくり」を進めてきた。また、平成の市町村大合併により市域が広域化したこともあり、様々な地域課題に対して地域が自ら考え実行することのできる仕組みとして「地域自治システム」を構築してきた。こうしたまちづくりの動きと、「超高齢社会への適応」として、昨今充実に努めている保健・福祉・医療の取組を重ね合わせ、豊田というまちの良さを生かす形で、地域共生の取組を進めている。

一人ひとりの「安心な暮らし」と「生きがい」

「支え手⇄受け手」  
の関係を  
超える



幸せを感じられる「地域共生社会」をともに作る

制度・分野の  
「縦割り」を  
超える

地域の「つながり合い」

「地域共生社会推進全国サミット in とよた」の成果として、孤独・孤立の増加、家族や地域といった支え合いの基盤の弱体化、地域課題の多様化・複雑化と言われる状況に対し、「おたがいさま」と言えるコミュニティ、つまり「人や活動、地域などのつながり合い」を、新たな形で取り戻すことを提唱します。

キーワードは「ともに つくる」です。

まず、「ともに」を考えていくため、私たちは、「市民の尊厳と自分らしさの実現」がすべての土台であることを、改めてお互いが認識し合わなければなりません。

その上で、家族や地域、職場だけでなく、社会におけるあらゆる関係性を見つめ直す必要があります。良いものは継続しつつも、それと同時に、これまで自然につくられてきた関係性の枠組みを外し、楽しみながら、私たちはともに新たな関係性をつくっていくのです。

こうした新たな関係性の中で、私たちが、多様な価値観を認め合い、参加し、「つながり合う」ことにより、自分らしい暮らしや地域のミライにさらなる可能性が生まれます。そして、市民やボランティア、活動団体といった地域の方々、事業者、社会福祉協議会、行政などあらゆる主体が、制度や分野を超えた「つながり合い」を育んでいくことで、健やかな暮らしを継続でき、仮に暮らしに困りごとが生じた場合でも、それぞれ行動し協力でき、そして支え合うことができるようになっていきます。

これらの考え方を2日間を通じて共有した私たちならば、一人ひとりが日々の幸せを実感し続けられる「地域共生社会」を、必ずや、ともにつくることができるに違いないと確信しています。

今こそ、私たちは、それぞれの人や地域、時代に合った新たな関係性により、多様な「つながり合い」をともに作り、そして「つながり合い」があること自体を価値とし、暮らしの「安心」と「自分らしさ」をともに育んでいきましょう。

これらのことを握りしめ、私たちは、ともに協力し合って、「地域共生社会」に向けた様々な参加と実践を進めることを、ここに確認し合います。



2023年10月13日

# 豊田市における地域共生社会を推進するための主要事業一覧



	事業名	事業概要	担当課	連絡先
1	わくわく事業	住みよい地域づくりのため、地域資源（人材・文化・自然など）を活用して、「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の活動を応援しています。	地域支援課	0565-34-6629
2	地域課題解決事業	住みやすい地域づくりのために、地域の声を的確に市の事業に反映させ、地域課題を解決するための仕組みです。 課題を解決するために必要な事業費を市の予算案に反映し、市と地域が共働で課題解決のための事業を実施しています。	地域支援課	0565-34-6629
3	重層的支援体制推進事業	社会福祉法に基づく同事業について、豊田市では多様な所属・機関が事業の主体を担うとともに、「多世代参加支援プロジェクト」として、民間事業所が集まり、既存で地域にはない新たな支援メニューを創出する取組を進めています。	よりそい支援課	0565-34-6791
4	在宅医療・福祉連携推進事業	本人の望む療養生活を全うできるよう、在宅医療と福祉の連携強化により在宅療養サービスの充実に向けた取組を推進しています。	地域包括ケア企画課	0565-34-6787

【令和6年度当初予算額】160,000千円(140,000千円) ※( )内は前年度当初予算額

安心な暮らし

○

生きがい(自分らしさ)

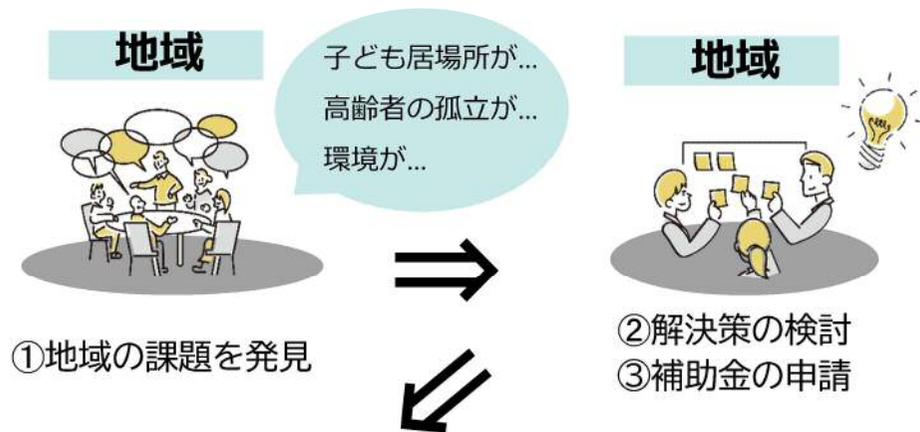
○

つながり合い

○

- わくわく事業は、住みよい地域づくりのため、地域資源(人材・文化・自然など)を活用して、「地域課題の解決」や「地域の活性化」に取り組んでいる団体の活動を応援する制度である。
- 様々な地域の課題に対して、地域住民が自ら考えて実行するきっかけづくりの仕組みである。地域による公開審査会を実施し、市長が補助額等を決定する。
- 豊田市では現在、280を超える団体が住みよい地域づくりのために活動しており、①保健福祉 ②伝統文化 ③防災防犯 ④環境保全 ⑤子どもの育成 ⑥産業振興 などの活動をしている。

住民が主体となって地域の課題を解決!



地域住民(支所等)



- ④地域・支所審査員による審査
- ⑤補助金の交付決定

補助金による支援

- ・市が交付(地域による審査あり)
- ・地域団体が主体で事業を実施

原則

- ・補助上限額100万円
- ・補助率90%

~わくわく事業の活動例~



彼岸花の整備活動



親子の性教育講座



環境整備活動



子どもの居場所づくり



地域活性化事業



お助け隊活動

【申請件数】

年度	R2	R3	R4	R5
件数	246	253	268	313

活動内容は多種多様!

住みよい地域づくりのために、  
住民の方が活動されています!



【令和6年度当初予算額】284,322千円(279,119千円) ※( )内は前年度当初予算額

安心な暮らし

○

生きがい(自分らしさ)

○

つながり合い

○

- 地域課題解決事業は、住みやすい地域づくりのために、地域の声を的確に市の事業に反映させ、地域課題を解決するための仕組みである。
- 豊田市では、全28中学校区に「地域会議」を設置し、地域の声を集約し、中期的な課題の深掘りや解決に向けて協議を行っている。
- 地域課題解決事業で取扱う事業は、地域課題の解決や地域の活性化に資する事業で、事業の実施にあたっては原則、地域会議(中学校区)エリアにおいて、地域と行政との役割分担に基づき、共働で取組むことを基本としている。
  - ① 地域会議からの提言による事業：地域会議が地域課題を集約し、作成した提言に基づく事業
  - ② 支所提案事業：支所が地域課題を集約し、提案する事業

地域の課題を事業化し、市と地域の共働で解決！



地域×市(共働)



【事業数】

年度	R2	R3	R4	R5
件数	68	63	68	73

※ R5は暫定の件数です

⑤地域と市が共働で事業を実施

～地域課題解決事業の活動例～

都市部



防災対策、交通安全、防犯対策等



浄水の避難所訓練の防災ゲーム体験



豊南の交通安全教室

山村部



定住対策、高齢福祉、観光交流等



旭木の駅プロジェクトの出荷作業



しもやま魅力発見事業

【令和6年度当初予算額】 65,354千円(62,846千円) ※( )内は前年度当初予算額

安心な暮らし

◎

生きがい(自分らしさ)

○

つながり合い

○

- 重層的支援体制整備事業とは、住民の複合・複雑化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を整備するため、①相談支援(包括的相談支援事業、多機関協働事業、アウトリーチ等を通じた継続的支援事業)、②参加支援、③地域づくりを一体的に実施する事業である。
- 豊田市では「重層的支援体制推進事業」として実施しており、その特徴としては、大きく2点ある。
  - ① 特定の所属・機関のみで、相談支援の3事業を実施するのではなく、多様な所属・機関が、これら事業の主体を担っていること。
  - ② 民間事業所等が任意で集まる場として、「とよた多世代参加支援プロジェクト」を設けて、既存で地域にはない新たな支援メニューを創出する取組を進めていること。

## 包括的相談支援事業

・自所属の対象ではない相談内容であっても、適切に聞き取り、対応できる支援機関につなぐ



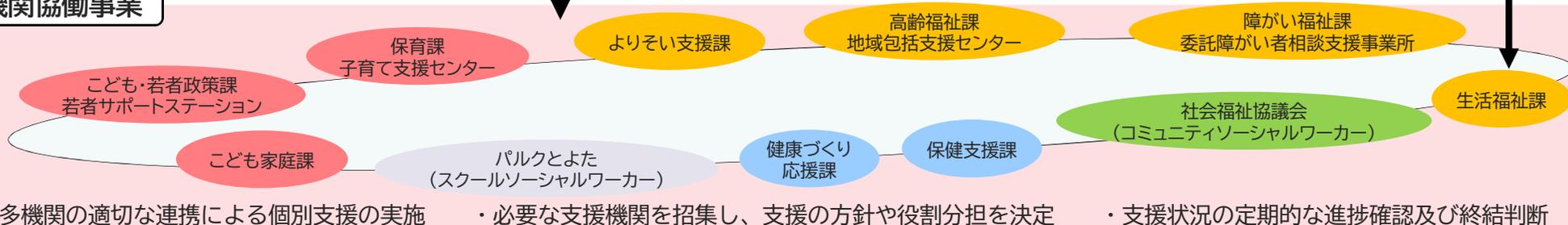
## アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

・同意のない対象者に対し、支援会議を経て情報収集や自宅訪問等を実施し、信頼関係を構築し支援同意を得る



## 支援会議

## 多機関協働事業



## 参加支援事業

既存の支援



支援策がない

新たな支援メニューの創出・提供

とよた多世代参加支援プロジェクト

・地域資源につなぎ、社会参加を促進(まずは有るものを活用)  
・既存の支援がない場合、「とよた多世代参加支援プロジェクト」に依頼し、新たな支援メニューを創出する

民間事業所等が任意で集まる場

## 地域づくり事業

地域介護予防活動支援事業

生活支援体制整備事業

地域活動支援センター事業

地域子育て支援拠点事業

生活困窮者支援等のための地域づくり事業

・世代や属性を超えた住民同士の多様な場の整備及びコーディネート  
・社協CSWが中心となり、各事業実施者と意見交換し、以下の5事業の参加者交流等を図る

【令和6年度当初予算額】21,023千円( 21.377千円) ※( )内は前年度当初予算額

安心な暮らし

◎

生きがい(自分らしさ)

○

つながり合い

○

- 豊田市では、将来にわたって本人の望む療養生活を実現できる、持続可能な地域包括ケアシステムの構築に向けて、本市と医療・福祉関係機関が共に取り組むアクションプランとして、令和6年3月に「第2次豊田市在宅医療・福祉連携推進計画」を策定している。
- 当計画の特徴としては、在宅療養生活全体にわたり適切なサービスが提供されるよう、医療と福祉が密接に関わる4つの場面(日常の療養支援・入退院時・急変時・看取り)において、柱となる4つの要素(提供体制・人材育成・連携・啓発)のあり方を整理し、各関係機関が主体的に展開する事業を位置づけている。

## 目指す姿

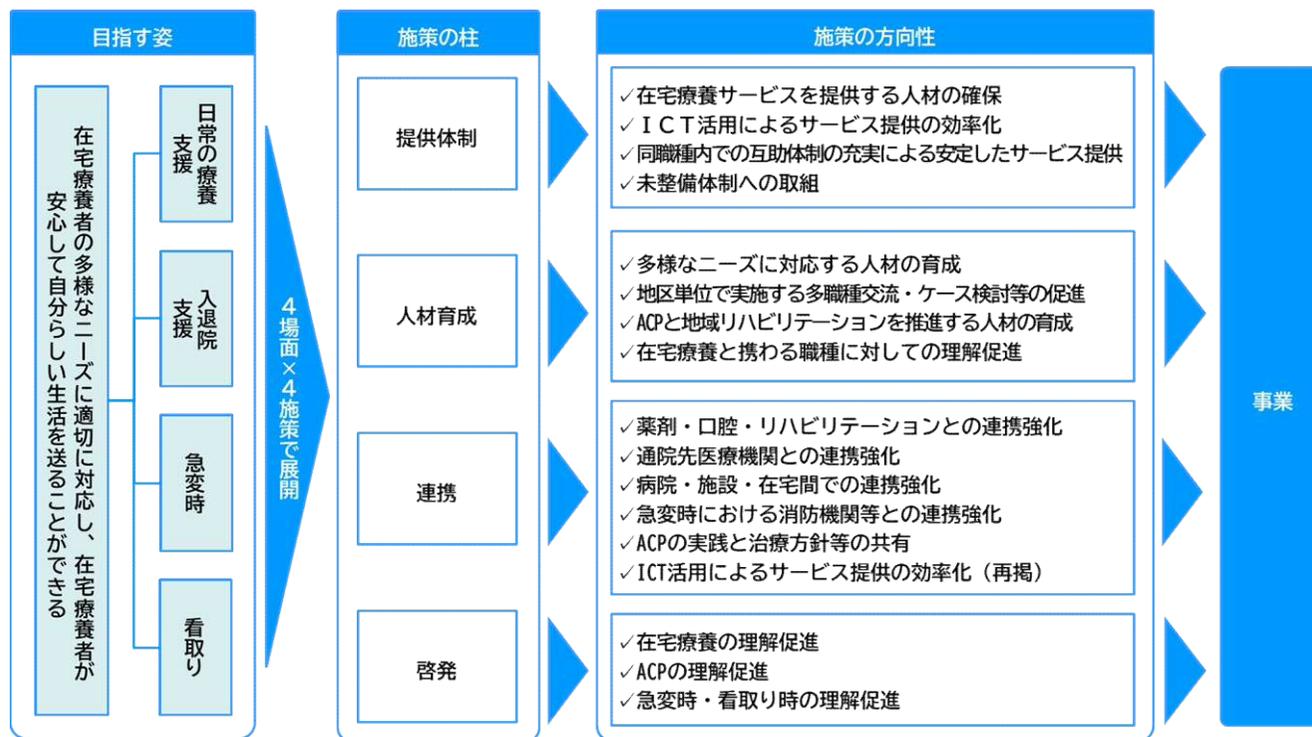
在宅療養者の多様なニーズに適切に対応し、在宅療養者が安心して自分らしい生活を送ることができる

## 計画期間

令和6年度～令和11年度

## 体系

右図のとおり



## 主な事業

### 在宅療養相談窓口

医療・福祉関係者のほか、市民からの在宅療養に関する相談を受け付け、必要に応じて訪問診療医等の調整や専門職間の橋渡しを実施

### 多職種連携の促進

多様化する在宅療養のニーズに的確に対応できるよう、在宅医療に携わる多職種の連携促進とスキルアップのための研修を開催

### ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の推進

自身の望む医療・福祉サービスを受けるために、自身の価値観等について、家族などの身近な人や医療・福祉専門職と事前に繰り返し話し合い、意思決定をサポートする取組